竹石　秋野
白倉　君江
大関　タツ
和平日出子

○果実の部
金賞　小林　実
銀賞　金子　義信
　　野沢　セツ
銅賞　河合　秋江
　　藤村　征一

○穀類の部
金賞　曽山　茂
銀賞　高柳　弘
　　児玉マツノ
銅賞　佐藤　正行

○そのほかの部
銀賞　村松ハツイ

◀「これ安いね」「そうですよ」

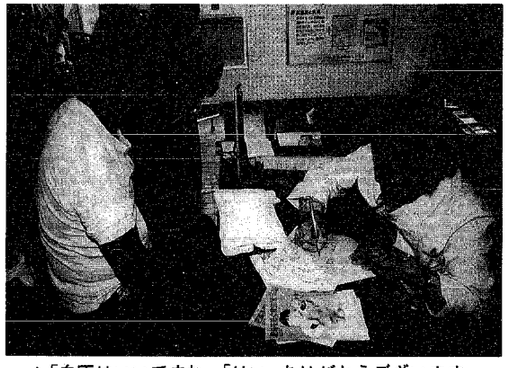
村民参加の第12回 健康展

村民のみなさんから参加して頂き、健康についての知識を高めてもらうための〝健康展〟が、産業まつりと同時開催日の十月二十七日(日)に、中学校体育館で行われました。

今回の健康展では、「展示コーナー」として、国民健康保険の仕組み・脳卒中やがん予防について・早期発見のための健診についてをパネルなどで分かりやすく説明するコーナー。また、「食習慣ふれあいコーナー」では、母と子のおやつ作りでクッキーの上手な作り方、塩分をおさえた健康食の試食、さらに、とっておきは、おばあちゃんの伝承料理として、昔の人の知恵料理などを展示や試食をしてもらうコーナー。

また、恒例となった「健康度チェックコーナー」では、体力チェック・肥満度チェック・ボケ度チェックと日ごろの健康度チェックをするコーナーと、各コーナーとも人の波がやむことがありませんでした。

三つのコーナーとも、大勢の人がそれぞれ関心のあるコーナーで熱心に見たり体験したりと、健康管理に対する関心度が増したと思います。



▲「血圧はいいですね」「はい、ありがとうございます」

▲「クイズは本当に難しいわね」

「これはおいしいクッキーですよ」▼

健康展に参加して

中嶋　哲さん

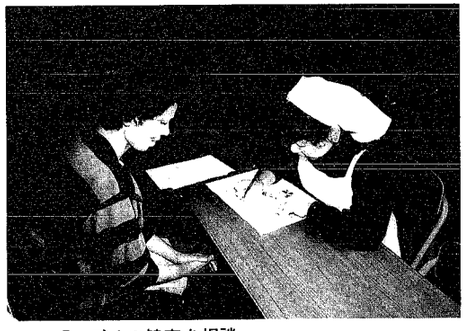
私は、毎年この時期にある小・中学校の文化祭と産業まつり・健康展には欠かさずに参加しています。

今回、幸運にも健康展で行われていたアンケートに当たり、〝万歩計〟を頂きました。おかげさまで毎日会社へ出掛けるときにベルトにしっかり付け、一日の仕事が終り家に帰って万歩計の数字を見ることが楽しみです。品物の名前が万歩計ですので一日の歩数を一万歩くらいにと努力して歩きたいと思っています。

十年以上も前ですと、あまり気にもしなかった健康管理が、ここ近年になりまして毎日の食事から運動量・睡眠時間なども少し気にするようになりました。とくに私は、仕事の都合上毎日車を運転している時間が長いので、腰痛という持病で悩まされています。一時期ある人から助言されまして朝早く起きてジョギングとラジオ体操をやってみたものの長く続かず、今は、朝寝坊をする始末。

今回の健康展で頂いた〝万歩計〟を腰に付け心気一転、健康づくりに体力づくりに小さい〝お友達〟と一緒に歩き励みたいと思っています。

▲「フーっと、結構大変なんですね」



▲「日ごろの健康を相談」

「昔の料理はなつかしい」▼

健康展を見て

和平佳奈子さん

産業まつりに出掛けたとき、私は母と一緒に参加しました。体力測定は久しぶりのことだったので、自分の数値に興味がありました。

中では測定のほか健康、病気に関する掲示も多数ありました。しかし、その掲示物に目を向けている方は少なかったように思います。私の思い違いかもしれませんが、自分の体を過信している人が多いのではないでしょうか。もしそうなら残念なことです。年齢に関係なく、それらの掲示物にも目を向けるように勧めてみてはどうでしょうか。

もうひとつ気になったことは、ある測定場所に列ができていたことです。測定に時間がかかるところには器具を増やす、人を増やすなど改善をして、スムーズに測定ができるようにした方がよいのではと思いました。

体力測定はとてもいいことです。村民一人ひとりに自分の体に関心を持ってもらうためにも、もっと種目を増やし、定期的に行った方が一番よいと思われます。そして、より多くの方が参加するようなものにしてほしいと願っています。

国保コーナー

通院は一月九〇〇円に

―老人保健の一部負担金がかわります―

老人医療は、七十歳以上の人及び六十五歳以上七十歳未満で一定の障害をお持ちの人を対象に医療給付をしていますが、このたび法律が改正され、医療機関窓口で支払うお金（一部負担金）が平成四年一月から増額されることになりました（表参照）。

医療費は年々増加しており、特に老人医療の伸びは大変大きくなっています。

平成二年度の村国民健康保険における一人当たり医療費（年額）は、一般十三万四千円に対し老人では四十七万六千円であり、一般の三・六倍もの支出となっています。

健康の維持増進を心がけるとともに、多受診、重複診療を慎しんで、医療費支出が少なくなるようご協力ください。

一部負担額の改定

	通院	入院
平成3年12月末まで（現行）	八〇〇円/月	四〇〇円/日
平成4年1月1日～平成4年度中	九〇〇円/月	六〇〇円/日
平成5・6年度	一、〇〇〇円/月	七〇〇円/日
平成7年度から	消費者物価指数の伸び率を指標にして改定	